

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62199	飛騨あさひイベント開催事業		担当課	朝日支所 基盤産業課	内線	3641
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	観光振興費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	イベント参加者	対象者数	5,500 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	地域資源を最大に活かした観光イベントの開催により、住民とのふれあい、交流人口の増大を図ることができる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・水芭蕉祭り、すずらん祭り、ドスコイ祭り、クリスタルライブinあさひ、氷点下の森水祭りを開催する、イベント実行委員会への負担金		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・美女高原水芭蕉祭り、すずらん祭り、ドスコイ祭り、クリスタルライブinあさひ、氷点下の森水祭りの5イベント					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	イベント回数	回	目標値	6	6	5
				実績値	6	6	5
	成果指標	交流人口	人	目標値	10,000	10,500	10,500
				実績値	7,362	6,831	5,500
	成果指標	自己負担金	%	目標値	20.0	23	25
				実績値	23	26	29
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)	115	113	115
				目標値			
	成果指標	算出根拠等		実績値			
				達成率(%)			
	成果指標	算出根拠等		目標値			
				実績値			
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)			
目標値							
成果指標	算出根拠等		実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	10,099	9,000	6,098	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			10,099	9,000	6,098	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,372	1,318	1,109	
	受益者	イベント参加者	(B)	7,362	6,831	5,500	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・四季折々の地域風土を活かしたイベントだけに住民の憩いの場・交流の場でもあり、体験型の内容については良い反響である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・地域資源を活用した集客率の高いイベントを実施することにより、地域の活性化を図る上で市が参画することは妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	C	・集客数を更に増やす為、各種内容を工夫する必要がある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・限られたイベント負担金の中で必要最小限の経費で取り組んでいる。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・地域資源を活かした観光イベントの実施により、地域住民の意識の高揚は図られたが、自主開催事業に向けた事業内容にする課題がある。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	5 / 10	→	100点換算	50 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・来客者の関心が高まるような仕掛けづくり等、市を挙げたイベントに発展させるために具体的な取り組みを検討する必要がある。
--	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62199	ふるさと体験事業 (グリーン・ツーリズム推進)		担当課	朝日支所 基盤産業課	内線	3641
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	観光振興費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	イベント参加者	対象者数	1,944 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	・都市住民との心の交流を通じてグリーン・ツーリズム活動を推進し地元産業の潤いと高齢者・女性等の生きがいをいづりてをを図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・龍巖山ミニ登山、御岳登山と自然観察会、すずらん大根と野菜のオーナー、子ども農山漁村交流プロジェクト事業、東海雪合戦大会に向けた調査・研究・実施		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・自然を活かした特産品開発事業、すずらん大根と野菜のオーナー事業、御岳登山と自然観察会、体験メニューの作成、養蚕、インストラクター養成事業、子ども農山村負プロジェクト事業、東海雪合戦																																																																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>単位</th> <th>目標・実績</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">活動指標 体験イベント回数</td> <td rowspan="2">回</td> <td>目標値</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td>125</td> <td>125</td> <td>140</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果指標 体験イベント参加者</td> <td rowspan="2">人</td> <td>目標値</td> <td>700</td> <td>2,500</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>2,572</td> <td>2,154</td> <td>1,944</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td>367</td> <td>86</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26	活動指標 体験イベント回数	回	目標値	4	4	5	実績値	5	5	7	算出根拠等		達成率(%)	125	125	140					成果指標 体験イベント参加者	人	目標値	700	2,500	2,000	実績値	2,572	2,154	1,944	算出根拠等		達成率(%)	367	86	97							目標値				実績値				算出根拠等		達成率(%)										目標値				実績値				算出根拠等		達成率(%)							
	指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26																																																																																					
	活動指標 体験イベント回数	回	目標値	4	4	5																																																																																					
			実績値	5	5	7																																																																																					
	算出根拠等		達成率(%)	125	125	140																																																																																					
	成果指標 体験イベント参加者	人	目標値	700	2,500	2,000																																																																																					
			実績値	2,572	2,154	1,944																																																																																					
	算出根拠等		達成率(%)	367	86	97																																																																																					
		目標値																																																																																									
		実績値																																																																																									
算出根拠等		達成率(%)																																																																																									
		目標値																																																																																									
		実績値																																																																																									
算出根拠等		達成率(%)																																																																																									
補足事項																																																																																											
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額																																																																																						
	歳出(千円)		(A) 800	800	700																																																																																						
	受益者負担(使用料・負担金等)																																																																																										
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)																																																																																										
	一般財源		800	800	700																																																																																						
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 311	371	360																																																																																						
	受益者	イベント参加者	(B) 2,572	2,154	1,944																																																																																						

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・集客の手段として自然環境を利用したグリーン・ツーリズムへのニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・グリーン・ツーリズム推進事業により、市民と行政が一体となり交流人口の拡大を図っており、地域の活性化を図る上で市が参画することは妥当である。 ・今後体験型交流事業を推進していくうえで、幅広い民間関係者に参加していただけるよう検討する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・体験交流の利用人数は増加傾向にある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・地元産業と一体となった、体験型交流事業が行われた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・グリーン・ツーリズムにむけた取り組みの認知度は高まっているが、体験者の関心が高まるような更なる仕掛けづくり等、市を挙げた事業に発展させるために具体的な取り組みを検討する必要がある。
--	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	95199	スズランカップJrクロスカントリー大会開催事業	担当課	朝日支所 地域振興課	内線
	95199				3611
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 体育総務費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民及び競技選手	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	県内唯一のジュニア対象のクロスカントリー大会を開催し競技力向上と青少年の健全育成を目指す		
概要	事業の実施手法(手段)	期 日 平成27年2月2日(曜日) 会 場 鈴蘭高原クロスカントリーコース 部 門 小学生・中学生・高校生の部(男女) 内 容 クロスカントリースキー(フリー)		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	期 日 平成27年2月15日(日曜日) 会 場 鈴蘭高原クロスカントリーコース 参加者 小学生(男子14人・女子17人)、中学生(男子17人・女子11人)高校生(男子2人) 計61人 内 容 クロスカントリースキー(フリー)					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	スズランカップクロスカントリー大会の実施	回	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	1
	活動指標	参加者数	人	目標値	55	65	80
				実績値	48	57	61
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	100
				達成率(%)	87	88	76
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
達成率(%)							
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 500	500	1,299		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		500	500	1,299		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A./B) 10,417	8,772	21,295		
	受益者	大会参加者	(B) 48	57	61		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・県内で開催される小学生から高校生までが参加可能な大会は当大会のみであり、関係者からのニーズは高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・実行委員会による大会実施としているが、競技力向上、選手育成には競技団体が実施することが望ましい
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・県内で開催されるジュニアを対象とした大会は当大会のみであり、市民以外にも県内から選手が参加し、活躍の場となっている
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	C	・同時期に当地で開催される大会との経費分担を行いコスト削減に努めてきたが、対象となる大会が1つ減ったことにより負担増となっている ・参加者数1人に対するコストは大である。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	C	・地域の特性を活かしたスポーツの推進ではあるが、競技人口の減少に伴い、実行委員会の負担増が大きい
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		4 / 10	→	100点換算 40 点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)

・参加者が少ないので、大会当日までの期間を利用し未経験者への講習会等を実施し、競技の魅力を伝えると共に、競技者の確保を促す必要がある。  
・単独での開催はコストが増大するため、複数の公認大会の開催を誘致する活動が必要である。

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)	担当課	朝日支所 地域振興課	内線
	3611				
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	3 民生費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1 社会福祉費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	3 老人福祉費		D	その他事業
根拠計画	高山市老人福祉計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	9,490 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	地域を基盤とした老後の社会活動の円滑な展開と町づくりへの高齢者の参画の促進		
概要	事業の実施手法(手段)	高齢社会を支える上で大きな役割を担っている老人クラブに対し、高齢者の生きがいと健康づくり、福祉の向上のために助成することにより、各種活動の育成、支援を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H26の実績	市連合長寿会に対する支援 ・会員及び各区、単位クラブに対する活動助成 ・事務局人件費に対する助成					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動 指標	連合長寿会会員数	人	目標値	10,000	10,000	10,000
				実績値	9,584	9,677	9,751
	活動 指標	算出根拠等	クラブ	達成率(%)	96	97	98
				連合長寿会単位老人クラブ数	目標値	143	139
	成果 指標	算出根拠等	%	実績値	139	138	137
				達成率(%)	97	99	99
	成果 指標	算出根拠等	連合長寿会加入率	目標値	40	40	40
				実績値	38	37	37
	成果 指標	算出根拠等	連合長寿会加入者数/65歳以上人口	達成率(%)	95	93	93
				目標値			
	成果 指標	算出根拠等		実績値			
				達成率(%)			
	成果 指標	算出根拠等		目標値			
実績値							
成果 指標	算出根拠等		達成率(%)				
			目標値				
成果 指標	算出根拠等		実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 420	420	420		
	財源 内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)	150	149	149		
		一般財源	270	271	271		
コスト 指標	受益者1件当たり(円)	(A/B) 653	640	659			
コスト 指標	受益者	朝日区会員数(4月1日現在)	(B) 643	656	637		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	高齢者が住み慣れた地域で、他の高齢者や住民と交流を持ちながら健康で日常生活を送るための活動として、市民の関心は高く、地域活動にも根付いているが、高齢者のニーズの多様化により加入者は減少傾向にある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市は、老人福祉法(第十条の三第一項)の規定により、老人クラブなどの老人福祉を増進することを目的とする事業を行う者の活動の連携及び調整、地域の実情に応じた体制整備に努めなければならないため。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	老人クラブ加入者は、減少傾向であるため、役員等により、組織や活動の見直しに取り組んでいる。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	長寿会活動に参加することにより、高齢者の健康増進と閉じこもり予防が図れた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・市全体として新規加入者の割合が減少しており、連合長寿会会員加入率と単位クラブの減少が課題となっている。健康で生きがいを持ちながら生活するために、地域とのつながりを深めながら、今後一層の充実と活発な取り組みが必要である。
--	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	72199	市道未登記用地測量事業		担当課	朝日支所 基盤産業課	内線	3642
予算	会計	1	一般会計	特別 予算 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	道路橋りょう費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	道路橋りょう総費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日地域の住民	対象者数	1,754 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・市道未登記路線の整備		
概要	事業の実施手法(手段)	・市道未登記箇所の確定測量を行い、登記関係書類を作成し、所有者からの寄附により道路用地として高山市へ所有権移転登記を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・4路線の調査(境界立会、相続関係)及び測量を実施。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	所有権移転登記筆数	筆	目標値	28	20	27
		算出根拠等		実績値	0	11	0
	成果指標	登記延長	m	目標値	1,580	1,630	600
		算出根拠等		実績値	0	300	330
	活動指標	調査延長	m	目標値	1,580	1,630	600
		算出根拠等		実績値	1,580	300	330
				達成率(%)	0	18	55
		算出根拠等		目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
				達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	307	2,640	6,684	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			307	2,640	6,684	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	164	1,436	3,689	
	受益者		(B)	1,873	1,838	1,812	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・土地所有者の権利主張によるトラブルを防ぐために所有権移転登記の整理は必要で市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・道路用地の取得は市が行うものである。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・土地相続問題の解消に時間を要し手間取っている。公園と現地との相違があり境界が確定しにくい、成果が上がっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・市の登記業務委託単価で契約している。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・事業完了路線において、土地所有者の権利主張によるトラブルを防ぐことができる。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		7 / 10	→	100点換算 70 点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることを何が必要なのかを記入)	・専門的部署を設置し、重点的に事業を進める必要がある。 ・単価契約ではなく、工程毎に積算を行い入札発注するのが望ましい。
--	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94199	花いっぱい運動推進事業		担当課	朝日支所 地域振興課	内線	3611
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	社会教育総務費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日地域の住民	対象者数	1,754 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・花いっぱい運動に参加する町内会や、地域の社会教育団体など広く募集し、花苗を配布して、朝日地域の景観保全を図る。 ・花壇づくりを通して、地域の子供から高齢者まで一体となった交流の場とする。		
概要	事業の実施手法(手段)	・花苗、チューリップの球根を購入し、希望する団体などへ配布する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・マリーゴールド(黄・橙) 各42TR ケイトウ(赤)31TR ・チューリップの球根(黄・赤・桃)各1,300個					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	参加団体	団体	目標値	21	20	20
		算出根拠等		実績値	17	17	17
	算出根拠等			達成率(%)	81	85	85
				目標値			
	算出根拠等			実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
算出根拠等			達成率(%)				
			目標値				
算出根拠等			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 597	521	532		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		597	521	532		
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B) 35,118	30,647	31,294			
	受益者	(B) 17	17	17			

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	合併前から花苗の配布を継続実施しており、参加団体はフラワーコンクールなどに応募して、市民に見ていただいている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市で花苗を購入して、地区社教に協力を得て各地区、団体へ配布しているため、事業主体を見直す必要はない
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	B	子供会の参加が少し減っているため、参加団体の目標値が少し下回った。しかし町内会の参加は変動はない。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	前年度の実績を踏まえ花苗・球根の数を種類を見直し、育てやすい花苗に変更し、より効果的な事業となるよう取組んだ。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	総合計画では、四季の花々で採られた親しみある地域個性の創出を目指しているため、その一貫として重要な事業になっており、朝日町内の景観保全に効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・ニーズを理解し、花の種類や数を検討する。
--	-----------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94699	ひだ朝日伝統文化祭助成事業	担当課	朝日支所 地域振興課	内線
種別					3611
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 目	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	6 文化振興費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日地域の住民	対象者数	1,754 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域芸能・工芸を一堂に集める発表会・展示会を行う文化祭の開催により、貴重な伝統文化・芸術を後世に継承し残すと共に、地域間の住民の交流を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	ひだ朝日伝統芸能文化祭を秋季に開催する。 事業実施主体 朝日地区社会教育推進委員会		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	伝統芸能の発表や、伝統工芸の展示発表などによる、朝日地域の伝統文化・芸術への理解が深まった。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	来場者(参加者含む)	人	目標値	500	500	500
				実績値	500	500	500
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	100
				目標値			
	算出根拠等			実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
算出根拠等			達成率(%)				
			目標値				
算出根拠等			実績値				
			達成率(%)				
算出根拠等			目標値				
			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
			目標値				
算出根拠等			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 600	500	500		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		600	500	500		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 320	272	276		
	受益者	朝日地域の住民 (B)	1,873	1,838	1,812		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	住民が地域文化・芸能・工芸に触れる貴重な機会となっており、盛況に開催されている。発表を通して地域住民の交流の機会となっている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	朝日地区社会教育推進委員会が補助を申請し、効果的な事業を行っている。また、類似の活動を行っている団体は無いので実施主体を見直す必要はない。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	成果の目標を達成している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	コスト面、事業内容を精査し、効果的・効率的な事業運営を行い、事業の開催に取り組んだ。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	文化振興事業は市長の公約に位置づけられており、芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出を図る上で効果が出ている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	予算の減額も踏まえ、事業規模の縮小やコストの削減による見直しを図る。
---------------------------------------	------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94699	地域文化振興事業		担当課	朝日支所 地域振興課	内線	3611
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6	文化振興費		D	その他事業	
根拠計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日地域の住民	対象者数	1,754 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	優れた芸術文化に接する機会を創出し、市民に心豊かな生活を営む場を提供し、魅力ある地域づくりを創出すると共に、地域の文化団体における自主事業開催のための基礎づくりを目指す。		
概要	事業の実施手法(手段)	講演会や演奏会など芸術鑑賞を開催する。 事業実施団体 朝日地区社会教育推進委員会		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	「小阪 明子」私と音楽トーク&コンサート					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	来場者(参加者含む)	人	目標値	300	300	300
				実績値	380	300	300
		算出根拠等		達成率(%)	127	100	100
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等		達成率(%)				
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等		達成率(%)				
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等		達成率(%)				
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	1,500	1,400	1,200	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,500	1,400	1,200	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	801	762	662	
	受益者	朝日地域の住民	(B)	1,873	1,838	1,812	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	住民が地域文化・芸能・工芸等に触れる貴重な機会となっており、盛況に開催されている。発表を通して地域住民の交流の機会となっている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	朝日地区社会教育推進委員会が補助を申請し、効果的な事業を行っている。また、類似の活動を行っている団体は無いので実施主体を見直す必要はない。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	成果の目標を達成している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	コスト面、事業内容を精査し、効果的・効率的な事業運営を行い、事業の開催に取り組んだ。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	文化振興事業は市長の公約に位置づけられており、芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出を図る上で効果が出ている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	より効率的、効果的な事業の開催をするための見直し。
---------------------------------------	---------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94799	市指定文化財保存事業		担当課	朝日支所 地域振興課	内線	3611	
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	9	教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	7	文化財費		D	その他事業		
	根拠計画	市指定文化財保存計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	天然記念物、有形文化財等は貴重な国民的財産であり、保護管理に努め後世に伝えていく大切な責務を持っている。説明板等を設置し、その重要性と意識啓蒙を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・指定文化財石柱設置 ・乗鞍登山道石仏祠設置		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	指定文化財石柱設置					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	石柱設置数	個	目標値	5	5	2
				実績値	5	5	2
	成果指標	算出根拠等	達成率(%)	100	100	100	
				対象文化財に占める設置済み石柱の比率	基	目標値	100
	算出根拠等	達成率(%)	77	88	100		
			77	88	100		
	算出根拠等	達成率(%)	77	88	100		
			77	88	100		
	算出根拠等	達成率(%)	77	88	100		
			77	88	100		
	算出根拠等	達成率(%)	77	88	100		
			77	88	100		
	算出根拠等	達成率(%)	77	88	100		
77			88	100			
補足事項							
・石柱については、指定文化財のうち有形文化財等を対象として設置しており、継続事業として所有者(管理者)への認識が高まっている。 ・登山道の石仏発掘調査は朝日村時代より実施しており、公募等により広く周知され保護活動に取り組まれている。							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	918	966	976	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			918	966	976	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	10	10	11	
	受益者		(B)	93,312	92,861	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・市民意識の向上を図るため文化財保護や継承に対する工夫が必要である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・全市民的遺産として捉え、文化財の保護と意識啓蒙を図る観点から保存活用していくべきものであり妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・継続事業として計画に沿った実績となっており、目標値は概ね達成されている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・石柱や石仏祠の作成の作成設置については入札で行い経費削減に取り組んでいる。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・歴史的、社会的に価値ある文化資源を再認識し、保存活用していくために必要である。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・より効率的、効果的な事業の実施をするための見直し。
---------------------------------------	----------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	95199	スポーツフェスタ助成事業		担当課	朝日支所 地域振興課	内線	3611
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置づけ	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5	保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	体育総務費		D	その他事業	
	根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日地域の住民	対象者数	1,754 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・余暇の時間増大により物質的充足感より心の豊かさなど精神的充足感が強く求められるようになり、日常生活に定着した参加しやすい軽スポーツの開会を開催することにより、地域の活性化につなげたい		
概要	事業の実施手法(手段)	期 日 平成26年7月、10月、11月 会 場 こだま館、朝日小学校グラウンド、体育館 内 容 ビンゴだボード、ダーツ、グラウンドゴルフ、わなげ、空き缶積み、ストラックアウト、ゲートボール、ソフトミニバレー		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	期 日 平成26年7月20日、10月5日、11月12日 会 場 こだま館、朝日小学校グラウンド 内 容 ビンゴだボード、ダーツ、グラウンドゴルフ、わなげ、空き缶積み、ストラックアウト、ゲートボール、ソフトミニバレー					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	スポーツフェスタの開催	回	目標値	1	1	3
				実績値	1	1	3
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	活動指標	参加者数	人	目標値	150	150	150
				実績値	100	60	230
				算出根拠等	達成率(%)	67	40
	成果面	算出根拠等	目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
	成果面	算出根拠等	目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
	成果面	算出根拠等	目標値				
実績値							
達成率(%)							
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 150	150	150		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		150	150	150		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 1,500	2,500	652		
	受益者	参加者	(B) 100	60	230		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・市民の生活形態、趣向性が多様化している中で、若者の参加が少なくなりつつある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・行政が市民のためのスポーツ推進、健康増進を行うためには必要な事業である ・行業シーズンのため、開催時期の検討が必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・市民の休日の過ごし方も多様化しているため、参加者に偏りはあるが種目別に3回に分けて開催し成果は上がっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・使用頻度の少ない用具等は他地域と融通しあう等の工夫が必要である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・軽スポーツを通じて子供から高齢者までが交流を深め、触れ合うことができる行事であり、参加者も増えつつある。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	5 / 10	→	100点換算	50 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・スポーツと健康増進をうまく組み合わせたプログラムを作成することが必要 ・開催時期の検討と地域の大切な行事としての位置づけが必要
--	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	53299	林業関連施設廃止事業		担当課	朝日支所 基盤産業課	内線	3631
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5	農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	3	林業費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2	林業振興費		D	その他事業	
根拠計画	該当なし						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	施設利用者	対象者数	不特定多数
	どういった状態にしたいのか(意図)	当該施設は、かつて目的をもって導入されたが近年では利用頻度が著しく低くなり、その役割を全うしたと判断される。また、施設の老朽化による危険性が高まっていることから、解体撤去し整然とした景観を確保する。		
概要	事業の実施手法(手段)	林業関係施設 2施設(緑と木のふれあい休憩所、あさひの森トイレ)の解体撤去。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	林業関連施設 解体撤去 2施設 ・緑と木のふれあい休憩所 木造平屋建て カラー鉄板葺き 1棟 A=35.00㎡ ・あさひの森トイレ 木造平屋建て カラー鉄板葺き 1棟 A=24.35㎡				
	活動指標	解体撤去施設数	施設	目標値	2	
		算出根拠等		実績値	2	
	算出根拠等			達成率(%)	100	
				目標値		
	算出根拠等			実績値		
				達成率(%)		
	算出根拠等			目標値		
				実績値		
	算出根拠等			達成率(%)		
			目標値			
算出根拠等			実績値			
			達成率(%)			
補足事項						
施設の老朽化による利用者の危険性を回避できたとともに、整然とした景観を確保することができた。						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	
	歳出(千円)		(A)	0	0	1,447
	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
一般財源					1,447	
コスト指標		受益者1件当たり(円)	(A/B)			
		受益者	(B)			
		施設利用者				

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	評価対象外	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	評価対象外	
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	/	→	100点換算	評価対象外	点
----	---	---	--------	-------	---

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	61199	道の駅周辺整備事業		担当課	朝日支所基盤産業課		内線
種別	1	一般会計		位置付け	特別予算		3632
予算	会計	1	一般会計	特別予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	商工費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
根拠計画	目	1	商工振興費	D	その他事業		
	根拠計画	該当なし					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	利用者	対象者数	37,552 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・道の駅への集客増と地域住民の生きがいづくりの場とする。 ・利用者の安全を確保する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・道の駅のイベント広場をグラウンドゴルフ公認コース設置可能な多目的広場に改修する。 ・道の駅店舗扉・カウンター改修・ちびっこ広場を移設する。(安全確保、駐車場拡張)		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・扉 3ヶ所、カウンター1台、倉庫改修、装飾塗装修繕、水道管修理、電源施設修繕 場内整備工 芝張りA=918㎡、舗装工A=647㎡、側溝布設L=51.3m、雑工1式				
	指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	グラウンドゴルフコース設置	件	目標値		1	0
	算出根拠等		実績値		1	
成果指標	利用者数	人	目標値		500	1,000
	算出根拠等		実績値		100	1,600
成果指標	利用者数	人	目標値			39,000
	算出根拠等	道の駅利用者	実績値			35,952
成果指標	算出根拠等		目標値			92
			実績値			
成果指標	算出根拠等		目標値			
			実績値			
成果指標	算出根拠等		目標値			
			実績値			
成果指標	算出根拠等		目標値			
			実績値			
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	
	歳出(千円)	(A)	0	9,807	16,308	
コスト指標	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
コスト指標	一般財源			9,807	16,308	
	受益者1件当たり(円)	(A/B)		98,070	10,193	
コスト指標	受益者	(B)		100	1,600	
	利用者数					

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	場内の安心安全度が高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	当該施設は市が所有し、指定管理者に管理を委託している。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	駐車場拡張・芝の育成に時間を要し、予定より開放が遅れた。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	設計はコスト削減をはかり、適正に工事を施工した。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	市長公約および総合計画が無い。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 8	→	100点換算	88 点
----	-------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・芝の育成期間を考慮し、適切な時期を決定する必要がある。 ・PR活動の強化。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62499	乗鞍・御岳登山道管理事業		担当課	朝日支所 基盤産業課	内線	3642
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	自然公園費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	登山道来訪者	対象者数	-
	どういった状態にしたいのか(意図)	来訪者が安全に自然に親しめるよう乗鞍及び御岳登山道の維持管理と環境整備を実地した。		
概要	事業の実施手法(手段)	委託業務により、下層植物について刈り払い等を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	乗鞍青屋登山道3km0.6haの刈払い。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	委託業務回数	回	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	1
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	100
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	599	210	194	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			599	210	194	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)				
	受益者	登山道来訪者	(B)				

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・登山者からの安心安全な通行に対してのニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・維持保全管理に対して市が参画する必要性はあるが、関係者との調整も検討課題である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	B	・地元精通者への業務委託で事業成果はあがっているが、定期巡視等を行い整備箇所の実施計画が必要である。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	C	・山岳森林地帯の整備のため、精通者による業務委託となる。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・自然環境への配慮とともに、利用者が不透明であり費用対効果の検証が必要である。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		4 / 10	→	100点換算 40 点
分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)		・登山道の延長が長く、継続的な刈り払いの実施が困難な状況となっており、登山愛好者や地元関係者との協働による整備が実施できるような取り組みが必要である。		
(参考) H26事業評価結果(二次評価)		26年度終了		
4 今後の方向性(Action)		課題等に対する27年度の対応状況		
26年度終了				
次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
H26完了		H27完了予定		
二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
H26完了		H27完了予定		

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	31399	福祉センター用地購入事業	担当課	朝日支所 地域振興課	内線
	番社				3611
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	3 民生費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1 社会福祉費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	3 老人福祉費		D	その他事業
根拠計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日地域の住民	対象者数	1,754 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	土地開発基金保有地(福祉センター用地)の買戻し		
概要	事業の実施手法(手段)	合併前に土地開発基金で購入した福祉センター用地(駐車場用地)の買戻しを行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	福祉センター駐車場 452㎡(田)					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	3,615	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源					3,615	
コスト	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,995			
指標	受益者	朝日地域の住民	(B)	1,812			

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	H26新規事業
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	H26新規事業
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	H26新規事業
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	H26新規事業
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	H26新規事業
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	/	→	100点換算	評価対象外	点
----	---	---	--------	-------	---

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	42299	食用油リサイクル事業		担当課	朝日支所 基盤産業課	内線	3642
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	4	衛生費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	清掃費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2	塵芥処理費		D	その他事業	
根拠計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	・回収(朝日・高根町・国府地域)	対象者数	90,938 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・使用済み食用油を回収、精製しリサイクルバイオ燃料として使用することにより市民リサイクル意識向上を図るとともに地球温暖化対策を推進する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・一般家庭から排出される食用油を拠点施設において定期回収する。 ・回収廃油を修理施設で精製し、バイオ燃料として活用する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H26の実績	・廃油の定期回収とBDF燃料の精製給油					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動 指標	廃油回収量	ℓ	目標値	2,500	2,000	1,500
				実績値	1,600	1,330	438
		算出根拠等	達成率(%)	64	67	29	
	活動 指標	燃料精製量	ℓ	目標値	2,500	2,000	1,200
				実績値	1,640	1,120	0
		算出根拠等	達成率(%)	66	56	0	
	成果 指標	燃料使用料	ℓ	目標値	2,500	2,000	1,200
				実績値	1,680	1,030	0
		算出根拠等	達成率(%)	67	52	0	
	成果 指標			目標値			
				実績値			
		算出根拠等	達成率(%)				
	成果 指標			目標値			
実績値							
算出根拠等		達成率(%)					
補足事項							
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	179	84	24	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			179	84	24	
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	2	1	0	
	受益者 全市民		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	リサイクル等、環境保全への取り組みは重要な課題であるが、回収量が減少傾向にあり市民意識の向上を図る必要がある
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	C	公用車の精製燃料の使用が中止となり、需要は見込まれないのが現状 民間による回収ルート等が確保されつつあり、検討が必要
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	C	一般家庭からの回収が減少しているとともに精製燃料の使用が中止となるなど活動の必要性は低い。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	C	回収及び精製はシルバークラスへ委託し、月1回拠点集積所での回収を行っているが、精製業務は行っていない。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	C	公用車の精製燃料使用がエンジントラブルを招くことから中止となり需要と供給の比率を考慮した事業展開が必要となる。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	1 / 10	→	100点換算	10 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・廃食油の分別回収と再資源化は地球温暖化防止対策や環境保全の一環とした取り組みであるが、精製燃料の利用方法と回収方法の検討が必要。
--	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	51399	モンキードッグ活動支援事業		担当課	朝日支所 基盤産業課	内線	3641
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5	農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	農業費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	農業振興費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日地域の世帯数	対象者数	533 世帯
	どういった状態にしたいのか(意図)	・モンキードッグ出動を強化し、安心して暮らせる地域づくりをめざす。		
概要	事業の実施手法(手段)	・モンキードッグの活動に対する助成		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・モンキードッグ6頭 計190回の出動があった。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	モンキードッグ出動回数	回	目標値	420	420	360
				実績値	271	190	190
				算出根拠等	達成率(%)	65	45
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
実績値							
算出根拠等				達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 210	180	180		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		210	180	180		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 394	338	338		
	受益者	朝日地域の世帯数	(B) 533	533	533		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・猿による農作物等の被害は年々増加傾向にあり、生活環境をも脅かされており市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・類似の事業は他にない。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	C	・モンキードッグの頭数減に伴い、出動回数が減少傾向にある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	C	・専門の訓練所以外にモンキードッグを育成する方法とともに、定期的な再訓練が必要である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・有害鳥獣対策における防除事業の強化は、市長公約に位置づけられ緊急の課題となっている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	4 / 10	→	100点換算	40 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることを必要なのかを記入)	・モンキードッグを地域内に平均的に配置して事業効果を高めるため、モンキードッグの増頭育成とハンドラーの後継者育成が重要である。
--------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	54199	地域生活道路環境保全事業(農道分)	担当課	朝日支所 基盤産業課	内線
種別	1	一般会計	位置付け	特別予算	3632
予算	1	一般会計	位置付け	特別予算	
款	5	農林水産業費	位置付け	特別予算	
項	4	農業土木費	位置付け	特別予算	
目	1	農業土木総務費	位置付け	特別予算	
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日地域の住民	対象者数	1,754 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	・農道を安全かつ円滑に利用する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・広域営農団地農道の交通安全確保のための除草 W=1.0m		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・広域営農団地農道の交通安全確保のための除草(A=5,800m)をおこなった。				
活動指標	指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	除草面積	㎡	目標値	5,800	5,800	5,800
			実績値	5,800	5,800	5,800
			算出根拠等	達成率(%)	100	100
活動指標	算出根拠等		目標値			
			実績値			
			算出根拠等	達成率(%)		
活動指標	算出根拠等		目標値			
			実績値			
			算出根拠等	達成率(%)		
活動指標	算出根拠等		目標値			
			実績値			
			算出根拠等	達成率(%)		
補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	
	歳出(千円)		(A) 378	378	376	
	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		378	378	376	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 202	206	208	
	受益者		(B) 朝日地域住民 1,873	1,838	1,812	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・広域農道整備事業が全線未完成なため、現在のところ交通量が少ない。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・当該農道については、市が管理している。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・必要な除草を実施し、交通の安全を図っている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・シルバー人材センターに委託することにより、コスト削減が図られている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	A	・シルバー人材センターに委託することにより、高齢者の就業機会の創出が図られている。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・広域農道整備事業が全線完成すれば交通量が更に多くなり、安全や景観保全を実施する必要がある。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	54199	農道用地購入事業 (土地開発基金)		担当課	朝日支所 地域振興課	内線	3611
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5	農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	農業土木費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	農業土木総務費		D	その他事業	
根拠計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日地域の住民	対象者数	1,754 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	土地開発基金保有地(農道用地)の買戻し		
概要	事業の実施手法(手段)	土地購入費(H25年度末購入金額及びH26年度以降の利息分の合計)		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	農道拡幅用地 69㎡					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
	補足事項						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	521	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源					521	
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	288			
	受益者	朝日地域の住民	(B)	1,812			

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	H26新規事業
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	H26新規事業
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	H26新規事業
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	評価対象外	H26新規事業
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	H26新規事業
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	/	→	100点換算	評価対象外	点
----	---	---	--------	-------	---

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	72299	地域生活道路環境保全事業(市道分)	担当課	朝日支所 基盤産業課	内線
種別	72299				3632
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	7 土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 道路橋りょう費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	2 道路橋りょう維持費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日地域の住民	対象者数	1,754 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・沿道景観を保持する。 ・「さくらロード」「もみじ街道」の景観保全および植樹帯の保護。(国・県道)		
概要	事業の実施手法(手段)	・地域内市道沿道の清掃および草刈り		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・町内市道14路線L=31,900mの沿道草刈り。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	沿道草刈	回	目標値	1	1	1
		実績値		1	1	1	
	活動指標	算出根拠等	m <sup>2</sup>	達成率(%)	100	100	100
		草刈り面積		目標値	60,000	64,000	64,000
	活動指標	算出根拠等		実績値	60,000	64,000	64,000
		達成率(%)		100	100	100	
	活動指標	算出根拠等		目標値			
		実績値					
	活動指標	算出根拠等		達成率(%)			
		目標値					
	活動指標	算出根拠等		実績値			
		達成率(%)					
	活動指標	算出根拠等		目標値			
実績値							
活動指標	算出根拠等		達成率(%)				
	目標値						
活動指標	算出根拠等		実績値				
	達成率(%)						
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 947	947	949		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		947	947	949		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 506	515	524		
	受益者		(B) 朝日地域住民	1,873	1,838	1,812	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・沿線の景観保全とドライバーの視野拡大。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市道沿線を保全するため。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・年2回の草刈り実施が理想だが、予算的に達成できない。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・シルバー人材センターに委託することにより、コスト削減が図られている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	・市長公約および総合計画がない。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		7 / 8	→	100点換算 88 点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・安全で快適な通行を確保するためには、道路が環境整備が必要であり、今後もコスト軽減に努める。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	20999	地域振興助成事業		担当課	朝日支所 地域振興課	内線	3611
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費		O	その他事業	
根拠計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日地域住民	対象者数	1,754 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	市民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進する。		
概要	事業の実手法(手段)	市民自らが主体となって取り組む地域振興事業に対して補助金を交付する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	町内会 20件 2,214千円 団体等 8件 1,497千円					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	申請件数	件	目標値	25	25	25
		算出根拠等		実績値	26	28	27
	活動指標	補助件数	件	目標値	25	25	25
		算出根拠等		実績値	26	28	27
	算出根拠等			達成率(%)	104	112	108
				目標値			
	算出根拠等			実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
	算出根拠等			実績値			
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 3,306	3,195	3,711		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		3,306	3,195	3,711		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 1,765	1,738	2,048		
	受益者	朝日地域住民	(B) 1,873	1,838	1,812		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域の住民の手による環境整備、文化保存に対する要望は非常に多い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・林道の維持管理は本来市が行うべきであるが、地域住民の手による修繕事業が多い。国道、県道の環境整備については、県の事業を取り入れるべきである。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・地域の住民の自主的な手法により、地域の環境を維持していくための活動となっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・地域が計画した予算の内容を市の基準に合わせて精査し、かいげんに取り組んでいる。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域住民が自らの地域を改善、振興することにより住みよい街づくり活動の支援事業として地域に定着している。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・市や地域が管理すべき施設以外の、県や国の施設については対応する県の事業を取り入れて、市の負担すべきコストを見直す必要がある。ただし、地域の事務的負担が大きくなる。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	20999	地域要望対応事業		担当課	朝日支所 地域振興課	内線	3611
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費		O	その他事業	
根拠計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日地域住民	対象者数	1,754 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	地域の要望に対応し住みよい環境に整える		
概要	事業の実施手法(手段)	地域の要望によりきめ細かな施設修繕事業を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	11件 10,228千円					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	事業実施した数	件	目標値	20	20	17
				実績値	17	10	11
		算出根拠等		達成率(%)	85	50	65
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等		達成率(%)				
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等		達成率(%)				
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等		達成率(%)				
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	14,000	6,154	10,228	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			14,000	6,154	10,228	
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	7,475	3,348	5,645		
	受益者	(B)	1,873	1,838	1,812		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・市民が要望する事業であり、住み良いまちづくり事業としてニーズは高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市が管理すべき施設の修繕である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・市民が要望する事業であり、住み良いまちづくり事業として充分達成している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・最小の費用で最大の効果を上げるよう取り組んでいる
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・市民が要望する事業であり、住み良いまちづくりの政策として重要性は高い。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	10 / 10	→	100点換算	100 点
----	---------	---	--------	-------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	51399	土地借上料	担当課	朝日支所	内線
	福祉				3631
予算	会計	特別予算の 位置付け	○	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目			D	その他事業
根拠計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民及び競技関係者	対象者数	1,754 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	施設用地借上		
概要	事業の実施手法(手段)	市の基準単価を上回る土地の賃貸借		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	高齢者若者センター施設用地 1,432㎡ 市営鈴蘭シャンツェ施設用地 27,022㎡					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	土地借上面積	㎡	目標値	28,454	28,454	28,454
				実績値	28,454	28,454	28,454
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	100
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円) (A)		898	880	873		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		898	880	873		
コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)		479	479	482		
	受益者	朝日地域住民 (B)	1,873	1,838	1,812		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外		
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市有の施設として維持管理	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外		
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	市の基準となるよう、地権者と交渉中である。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外		
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		3 / 4	→	100点換算	75 点

分析・評価で明らかになった課題 (「A」評価にするために何が必要なかを記入)

市の基準を上回っているため単価交渉をする必要がある。

(参考) H26事業評価結果 (二次評価)

26年度終了

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況

26年度終了

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定